

北海道原子力防災訓練

一時移転避難や放射性物質の除染を実施！

北海道電力泊発電所のトラブルによる原子力災害を想定した防災訓練が、2月6日と13日の2日間、国や道、積丹町を含む泊発電所から30km圏内にある後志管内13町村で実施されました。



▲避難所受付と安定ヨウ素剤の配布（文化センター）

北海道の”訓練想定“

後志地方で雪崩等の雪害が発生する中、泊発電所3号機でトラブルが発生し、原子炉を停止。その後、設備故障により原子炉が冷却不能となり、さらに事態が悪化し、放射性物質が放出されたとの”訓練想定“でした。



▲バスで避難（美国町）

意思決定訓練

一時移転の実施方針を決定

6日には、共和町の北海道原子力防災センター（オフサイトセンター）で、国の一時移転実施方針を決定する意思決定訓練が行われ、町村の災害対策本部と国や道の機関がテレビ会議で繋がれ、避難状況の報告や国・道への要請事項の伝達訓練を行いました。

実働訓練

町民約120名が参加

13日は、6日に決定した実施方針に基づき、町外への一時移転などの避難訓練が行われ、美国・日司・野塚・余別地区の町民の皆さんが参加しました。

当日は、IP告知端末機や屋外拡声器、緊急速報メール、



▲一時滞在場所受付訓練（札幌市）

広報車からの避難指示により、町が指定した各地区の避難所へ避難を行いました。

また、美国地区の空間放射線量が一時移転が必要な数値となったことから、町民を札幌市へ避難させるため、道に避難バスの手配を要請し、2班に分かれて、バスで札幌市と余市町へ避難しました。

後志自動車道余市インターを利用した初の訓練で、所要時間の短縮が図られ、移動中は町職員がバスの現在地を把握するために、スマートフォン



▲避難退域時検査訓練（余市町）

ンの位置情報システムを活用したほか、避難バスの集合場所では、保健師等が非常時に服用する安定ヨウ素剤の配布訓練も行いました。

札幌市班は、避難先の京王プラザホテル札幌で昼食後、一時滞在場所となる札幌市西区体育館で、避難受付や避難誘導の訓練を行い、道、札幌市、積丹町の各職員が滞在場所の割り付けを作成し、町民22名を体育館の避難スペースへ誘導しました。

余市町班は、中央水産試験場へ行き、鈴木直道知事の視察が行われる中、避難用バス



▲鈴木知事による視察（余市町）

や乗客の衣服・体に放射性質が付着していないかを検査し、結果に応じて除染措置を受ける、「避難退域時検査訓練」に10名が参加しました。

参加者からは「訓練に参加したことで、いざという時の避難の流れを知ることができた。」「刻々と変化する状況を理解するのは大変だが、少しでも災害情報を知る必要があると感じた。」との声が聞かれました。

また、訓練後のアンケートでは、「非常に勉強になった。」や、「もし災害が起きた時はすぐにバスで避難できる」とは限

らない。日頃から非常食等を備えておく必要がある。」「広報等により知識を身に着けることが大切だ。」などの意見がありました。

町内施設との連絡訓練

その他の訓練では、エイジングステーションやすらぎ、特別養護老人ホーム「ゆうるり」、（一社）積丹観光協会、各小中学校との通信連絡訓練を行い、屋内退避の呼びかけや要支援者の状況確認等を行いました。

災害への備えは家庭から

自然災害や原子力災害などの非常事態は、いつ発生するかわかりません。災害が発生したとき、どこに・どのように避難するのか、「自分の命は自分で守る」、自助“の確認を、日頃から家庭でお願いします。

「日司・野塚・余別地区」

自主防災組織の訓練も

日司・野塚・余別の3地区では、自治会・町内会の自主防災組織が中心となり、町民自身による避難所の開設などの訓練に約90名が参加しました。

災害備蓄品の点検、役員の役割分担を行うなど、災害時の「自助・共助」の大切さを確認していただきました。

▶防災備蓄品点検（野塚町）



▲避難者の確認（余別町）

「株京王プラザホテル札幌」と「積丹町」 「積丹町民の受入支援に関する協定」締結

町と株京王プラザホテル札幌は、12月23日、「原子力災害時における積丹町民の受入支援に関する協定」を締結しました。

この協定は、原子力災害が発生した際に、町民が安全に避難でき、町の要請に応じて、宿泊などのサービスの提供や施設の利用について、同ホテルの支援をいただくものです。

京王プラザホテル札幌の池田社長は、こうしたホテルとの災害時支援協定の事例が少ない中で、「災害は起きないことが一番だが、もしもの時には、積丹町の大きな力になれるよう全面的に協力したい。」と話していました。



▲株京王プラザホテル池田社長（右）と松井町長（社長室の油絵は、神岬海岸）